

「スイートリトルライズ」☆☆

2010（平成22）年1月25日鑑

賞＜GAGA試写室＞

監督：矢崎仁司

原作：江國香織『スイートリトルライズ』（幻冬舎文庫）

岩本瑠璃子（ティディベア作家）／中谷美樹

岩本聡（IT会社に勤める瑠璃子の夫）／大森南朋

三浦しほ（聡の大学時代の後輩）／池脇千鶴

津川春夫（瑠璃子の若い恋人）／小林十市

岩本文（聡の妹）／大島優子

美也子（春夫の恋人）／安藤サクラ

藤井登美子（雑誌編集者、瑠璃子のマネージャー）／黒川芽以

君枝（近所の老女）／風見章子

2009年・日本映画・117分

配給／ブロードメディア・スタジオ

＜これが本格不倫ドラマ？＞

大森南朋と中谷美紀が夫婦役で初の共演。そして、中谷美紀演じる人気ティディベア作家で妻の岩本瑠璃子が若い恋人津川春夫（小林十市）と恋に落ち、IT会社に勤める夫岩本聡（大森南朋）もダイビングスクールOB会で出会った後輩の三浦しほ（池脇千鶴）と不倫。そんな状況設定を聞き、ドロドロ不倫の物語が大好きな私はその出来に大いに期待。また、事前のネット情報によれば「中谷美紀の本格不倫ドラマ『スイートリトルライズ』完成」と書かれていた。

ところが、実際はなんの抑揚もなく、淡々と進んでいくストーリー展開に途中からうんざり。とりわけ、去る1月19日に観た韓国時代劇『霜花店（サンファジョム）運命、その愛』（08年）での本番そのもののような性交シーンに度肝を抜かれた私は、本作における膣抜けのようなベッドシーンにがっかり。これがホントに本格不倫ドラマ？

＜「不倫」に至る必然性は？＞

『失楽園』（97年）における役所広司演ずる久木祥一郎と黒木瞳演ずる松原凛子の不倫の始まりとその進展には必然性が感じられたが、本作における瑠璃子と聡の不倫への必然性は？まず不倫が先行するのは妻の瑠璃子だが、そのきっかけは瑠璃子のファンだという美也子（安藤サクラ）を恋人にもつ若い青年春夫との個展会場における出会い。なぜ現在の恋人の美也子とうまくやっている春夫が、急に瑠璃子にモーションをかけ始めたの？そしてなぜ、いきなり瑠璃子と春夫のキスシーンが登場するの？また、その直後にはなぜ、瑠璃子は春夫の家のベットの中で一緒にいるの？その必然性がわからないから、私は戸惑うばかり。

他方、しほが最初から聡を狙ってモーションをかけていることは明らかだが、聡はしほのことをどう思っているの？それがさっぱりわからないから、2人でダイビングに行こうというしほの誘いになぜ聡は応じたの？それも私にはさっぱりわからない・・・。

＜一見夫婦仲は良さそうだが＞

映画冒頭、ダブルベッドの上で聡と瑠璃子が仲良く並んで寝ている姿が映し出される。瑠璃子は午前6時前に起き、コーヒーを沸かし、朝御飯を作り、窓ガラスを拭きながらガラスをコツコツとノックし、窓越しに夫に対して「おはよう」のご挨拶。後に登場する雑誌編集者藤井登美子（黒川芽以）とのやりとりや、個展での瑠璃子の姿をみると、瑠璃子が人気ティディベア作家であることがよくわかるが、映画冒頭の落ち着きかつ自信に満ちたそんな瑠璃子の行動を見ていると、二人の夫婦仲はいかににも良さそう。ところが、いやいや待てよ・・・。

＜最近はこんな夫婦が激増中？＞

ストーリーが展開するにつれて、会社から帰ってきた夫が自分の部屋にこもってテレビゲームに熱中している姿が見えてくる。また、時々訪れてくる聡の妹の岩本文（大島優子）と瑠璃子の会話を聞いていると、そんな時聡の部屋には鍵がかけられているらしい。従って、そんな時の夫婦の会話はいつもケータイらしいが、そりゃ何か変。また再三登場する朝食のシーンを見ても、聡はいつも新聞か雑誌を読んでおり、妻のことは何も気にかけておらず、気になるのは「今日は何のタマゴ料理？」だけ？

そして何よりも驚くべきは、瑠璃子と春夫との寝物語の中で交わされる、春夫からの「ご主人とはこんなことどれぐらいしているの？」との質問に対して瑠璃子が「全くしていない」と答えること。つまり、結婚3年目だという聡と瑠璃子は、今流行のセックスレスなのだ。それなら、なぜ2人はダブルベットに？そして、聡は男としての性的欲求をどこで処理しているの？また、瑠璃子は聡に対する性的不満は無いの？いったいこの夫婦は仲がいいの？悪いの？

そんなこんなが私にはサッパリわからないが、最近はこんな夫婦が激増中？

＜心中死体は、何を暗示？＞

本作中盤のハイライトは、しほからの「2人だけのダイビング旅行」という提案を受けて聡が計画した不倫旅行。久しぶりのダイビングを名目とした聡の計画は、瑠璃子と2人だけの旅行と設定したうえで、現地でひそかにしほと合流（合体？）するというものだから、かなり手が込んでいる。旅館のおばさんから「新婚旅行ですか？」と尋ねられて、「私たち駆け落ちなの」と答えて喜ぶ（？）瑠璃子の姿をみると、いかにその心がウキウキしているかが一目瞭然だが、そんな2人が翌朝旅館の窓越しに見たのは海岸に打ち上げられた男女の心中死体。一体これは何を暗示するの？

この不倫旅行先にまで春夫が瑠璃子を追っかけてきたのには驚いたが、若い男のそんな情熱に負けるのが年上の女心？そんな偶然も重なって旅行先はダブル不倫のドロ沼となったわけだが、この心中死体が暗示するのは何？それはひょっとして、ここまですドロドロ状態になった2人の行き着く先？

＜ビンゴの死と墓穴での添い寝は、何を暗示？＞

本作には、瑠璃子が散歩の途中ミルクをあげたりして可愛がっている犬の姿が登場する。私にはそれが何を意味するのかよくわからなかったが、ビンゴと呼ばれるこの犬が老衰で死亡した時、瑠璃子が飼い主のおばさん君枝（風見章子）から頼まれたのがビンゴの埋葬。しかし、庭の土を掘りおこして墓穴をつくり、そこにビンゴの死体を埋める作業には男手が必要。したがって聡がそれをやったわけだが、そこに登場するのがいかにも江國ワールドらしい（？）そして矢崎仁司監督の演出らしい（？）、墓穴の中での瑠璃子とビンゴの添い寝。こりゃ一体何を暗示するの？

このまま土をかければ、瑠璃子も一緒に墓穴の中で永遠の眠りにつくことができるかもしれないが、さてこんなシーンをどう解釈すればいいの？私にはサッパリわからないが・・・。

＜ダブル不倫の行く末は？＞

渡辺淳一原作の『失楽園』はどんな結末に至るのが十分予想できる中で、その過程をタツプリ楽しむことができるストーリーだったが、江國香織原作の本作は結末がサッパリ見えてこない。春夫は瑠璃子との関係性を続けるために従来の恋人美也子と別れるつもりらしいが、そうなると瑠璃子もそれに合わせてよりドロ沼に？

他方、聡はもともとしほにそれほど惹かれたわけではなく、色気タツプリ（？）のしほからのモーションに負けただけみたいだから、このままずっと不倫関係が続くとは思えない。しかし、始めるのは簡単だが終わらせるのが難しいのが不倫、「別れよう」などと聡が切り出したら、しほは一体どんな対応を？弁護士として35年間男女関係を含めてさまざまな問題を取り扱ってきた私はどうしてもそんな事を考え、ダブル不倫の行く末が予測できなかったが、江國ワールドが描くダブル不倫の行く末は？

＜この甘ったるい結末をどう解釈？＞

本作のラストの舞台は、聡たち夫婦が住んでいるマンションの一室へ上る戸外の螺旋階段の上。通常はエレベーターを使うはずだが、なぜか今日聡はこの螺旋階段を上って家に帰ろうとしていたが、その螺旋階段に座って彼を待っていた（？）のが瑠璃子。ここで交わされるラストの会話が2人の今後を暗示する大切なセリフだが、それを一体どう解釈すればいいの？それはあなたの目でしっかりと。

物語の途中で登場する、瑠璃子から聡への「あなたの腕の輪の中に入りたい」という甘ったるいセリフと、ままごのような腕の輪づくり（？）と合わせて、私はこんな甘ったるい結末に納得できないが、さてあなたは？

2010（平

成22）年1月26日記